

今月の指導

初等教育研究所 加藤 良子



学習のまとめ「〇〇新聞」評価のポイント

(1) 通知票作成に向けて

7月は、いよいよ通知票作成に向けて取り組んでいることと思います。

ここ数年で2学期制の学校も増えたようですが、評価してきた記録をまとめているのは同じだと思います。社会科では、日頃、子どもたちのノート、ワークシート、新聞などの作品、学習に取り組む姿勢などを評価し記録しておいたものと、単元（小単元）ごとのワークテストなどを参考に観点別で評価をしていくと思います。下の表は、国立教育政策研究所教育課程研究センターで示された「評価規準の作成のための参考資料」を基に、S校で作った評価規準です。お示しするのは6学年1学期のみですが、各学校では、このようなものを、教員間で共通理解を図るために、或いは保護者会資料として作成していると思います。

<都内S小学校の試案>

※教科書は東京書籍版

学期	評価の観点(通知表文言)	※主な学習内容(単元名)	評価の規準	評価の場面・方法
1 学 期	わが国の歴史に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文の村から古墳のくにへ ・天皇中心のくにづくり ・武士の世の中へ ・今に伝わる室町文化 ・戦国の世から江戸の世へ 	・歴史上の人物や文化遺産に関心をもち、資料の収集や準備、読み取りを意欲的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・ノート ・資料の準備の様子
	わが国の歴史について、課題を追究し、その意味について考え、判断したことを適切に表現している。		・歴史上の主な人物の働きや代表的な文化遺産から学習問題をつくり、考えたことを述べたり書いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・歴史新聞などの作品
	社会的事象を的確に調査したり、各種の基礎的な資料を活用したりして、必要な情報を読み取ったりまとめたりしている。		・遺跡や文化財、地図や年表その他の資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図・年表 ・歴史新聞などの作品
	わが国の先人の業績や文化遺産について理解している。		・調べたことを白地図や年表、作品などにまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ワークテスト他
			・大和朝廷による国土の統一の様子、天皇を中心とした政治が確立されたこと、武士による政治が始まったこと、室町文化が生まれたこと、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かっている。	

今年の3月、教育課程研究センターでは、評価の指導資料・事例集「評価方法等の工夫改善のための参考資料」を公開し、より適切な評価を行うように示しています。評価は確かに児童の実態を捉えるために多面的にかつ様々な場面で必要ですが、評価をすることに

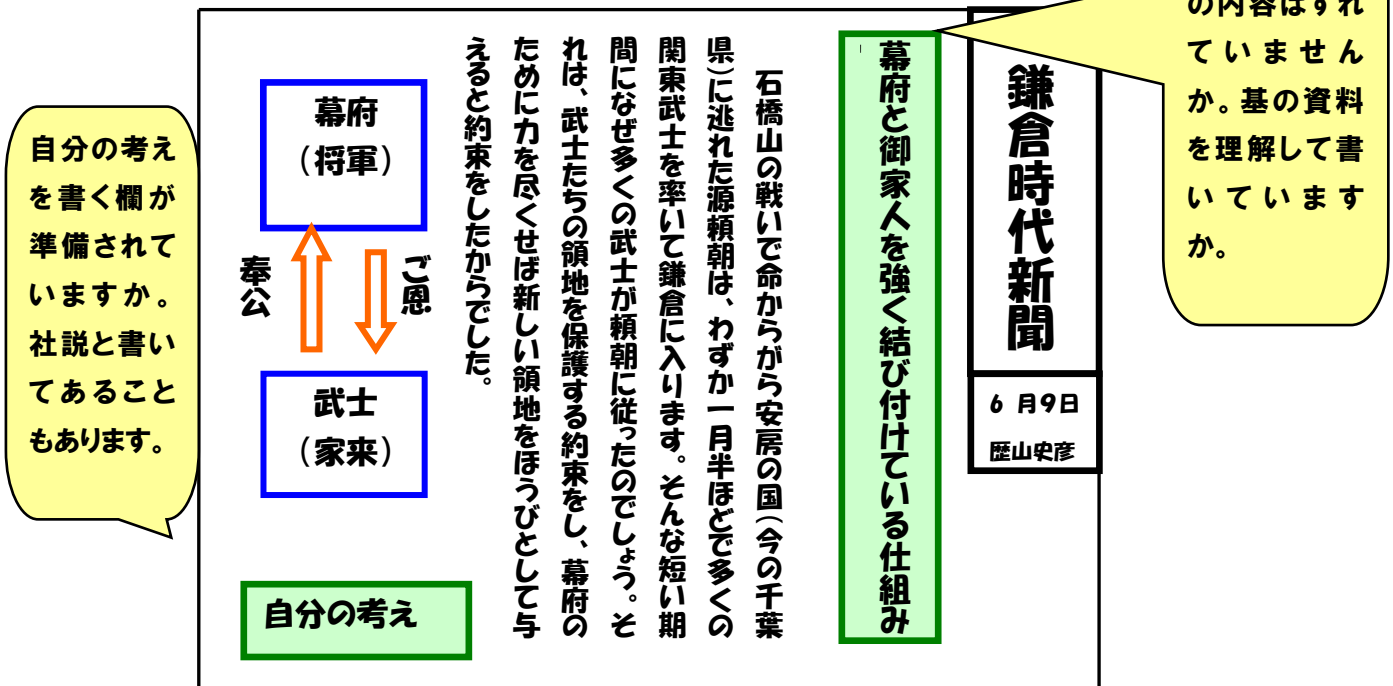
あまりとらわれすぎると、時間がかかりすぎ、気持ちが滅入ってしまった経験があります。一人一人の教師が無理なくできることがまずは大切です。そのためにも評価規準を設定して、評価方法を考えておくこと、また、どの場面で主にどの観点の記録を残しておくかを考え、計画的に授業に取り組むことに心がけていれば、学期末にあわてずに評価の記録をまとめていけると思います。



(2) 「新聞」を評価するポイント

① 学習のねらいに合った新聞になっているか。

このことは、基本中の基本で、評価以前の問題かもしれませんが、伝えたいことをきちんと伝える技能は、身に付くまで時間がかかる子も案外と多いのです。単元の学習をまとめているはずなのに、新聞の内容が大変ずれているという経験は私だけではないと思います。まずは、学習のねらいに合った内容になっているか、クラスの学習問題を意識して、その解決のための内容になっているかを評価します。私の場合は、割付（下書き）の段階で一度見るようにしました。そうすることで、何を主に伝えたいかを確認でき、ずれを修正してあげることができました。



② 評価する観点を決め、記録に残そう。

自分はこの新聞で子どもたちのどの力を評価するかを決めます。例えば、適切な資料を選択しているか、選択した資料を読み取って、よく理解して書かれているか。＜観察・資料活用の技能＞ ・出来事の特徴について考えたり、他の出来事と関連付けたり比較したりして考えたことが書かれているか。＜社会的な思考・判断・表現＞ 決めた観点については、どの子についても記録します。記録の仕方は評価規準に照らして記号等で表し、顕著なことは記述しておきます。顕著なことは忘れないと思っても、残しておかないと記憶が曖昧になってしまいます。評価で疲れすぎないように記録の

仕方を簡潔にしておくといいですね。

③ 指導と評価は一体です。

適切に評価をするには、評価ができる新聞になっている必要があります。子どもの考える力とその表現力を新聞の内容から評価しようと思っても、記事の中になければ評価のしようがありません。やはり、新聞を作る段階で考えを書き入れる欄を作るように指導することが必要です。資料についてもそっくりそのまま写すのではなく、自分なりの工夫をすることを指導しなければなりません。

④ 記事は正しい内容で。

出来上がった新聞を見ていると、事実が違っていたり字が間違っていたりしていることを時々発見します。それは必ず訂正してあげましょう。このことは社会に限らないかもしれませんが、壁に貼ってある作品が正しい字で書かれていると、先生はよく見てくださっていると信頼が増してきます。最後の評価の仕上げとして心がけてみてください。

(3) ワークテストの活用

忙しい日常の中で、評価の記録を残し、まとめることを心がけてはいても、市販のワークテストに頼りすぎてはいませんか。ワークテストは複数市販されていますが、内容をよく見て子どもの実態をよりよく評価できるものを採用するようにしてください。そして、自分の日頃の記録とワークテストを上手に組み合わせて、より子どもの実態を捉えた、より子どもの努力や伸びを見つけ認めてあげられる評価になるように努力してください。

評価の研究は、面倒、難しいというイメージで敬遠されがちですが、教えたら評価をしなければわたしたちの仕事は進みません。評価の達人になる近道はありませんが、ここと決めたポイントをこつこつと積み重ねていってください。やがて、ここがポイントだと分かるようになっていくと思います。がんばってください。

